

JA全厚連情報



J A神奈川県厚生連 伊勢原協同病院で院内防災訓練を実施

目 次

- 第4回 日本地域医療学会学術集会のお知らせ
(参加申込期限迫る) 1
- 第77回通常総会を開催
令和6年度(第77年度)貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案及び
注記表並びに事業報告を承認 3
- 小児医療体制及び周産期医療体制の現状と取組について等研修会を開催
第21回全国厚生連病院長会研修会 7
- アカデミック・ディテリングについて研修
医薬品セミナーをWEB開催 9

・通信員だより

- 令和7年度 職員の健康に向けた体組成測定器の解放実施 (JA岩手県厚生連) 10
- 第48回盛岡さんさ踊り2025の参加 (JA岩手県厚生連) 11
- 泌尿器科の常勤医による診療を再開しました (雄勝中央病院) 12
- 秋田県農村医学会第127回学術大会 (一般財団法人秋田県農村医学会) 13
- 第83回関東農村医学会を開催 (JAとりで総合医療センター) 14
- 高校生向けインターンシップを開催 (総合病院土浦協同病院) 15
- 新病院長が就任いたしました (相模原協同病院) 16
- 第17回相模原北部緩和医療研究会を開催しました (相模原協同病院) 17
- 院内防災訓練を実施しました (伊勢原協同病院) 18
- キャリア教育イベント メディカルツアー開催 (中濃厚生病院) 19
- 令和7年度三重県厚生連研修医症例発表会の開催 (JA三重厚生連) 20



全国厚生農業協同組合連合会
〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル
TEL(03)3212-8000 FAX(03)3212-8008
E-Mail: kanri@ja-zenkouren.or.jp
(事業管理グループ)
<https://www.ja-zenkouren.or.jp>
編集責任者 歸山 好尚



JA厚生連



第4回 日本地域医療学会学術集会のお知らせ (参加申込期限迫る)

開催日：2025年10月11日(土)・12日(日)

会 場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター(新潟県新潟市)

●学術集会への積極的な参加をお願いします

日本地域医療学会は、「地域医療を守る病院協議会」が中心となって設立された団体です。学術集会を開催しており、第1回は令和4年2月に全国国民健康保険診療施設協議会が、第2回は令和5年12月に全国自治体病院協議会(志摩市民病院)が、第3回は地域包括ケア推進病棟協会(南砺市民病院)が主催者となっています。第4回となる今回はJA全厚連が協力団体となり、JA新潟厚生連 あがの市民病院の藤森勝也病院長を学会長として開催されます。

地域医療に関わる皆さまの交流と学びの場として、ぜひご参加ください。

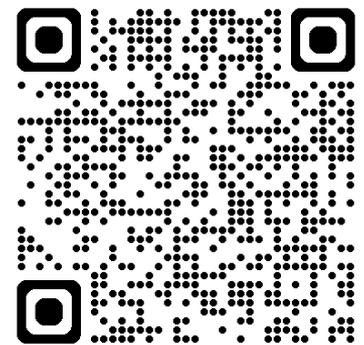
●参加申込について

参加申込期限は、9月5日(金)となります

詳しくは、下記の公式ホームページをご覧ください。

日本地域医療学会 学術集会ホームページ

<<https://www.jach.or.jp/4gakuiyutu/>>



日本地域医療学会 学術集会
ホームページ QRコード

●宿泊に関するご案内

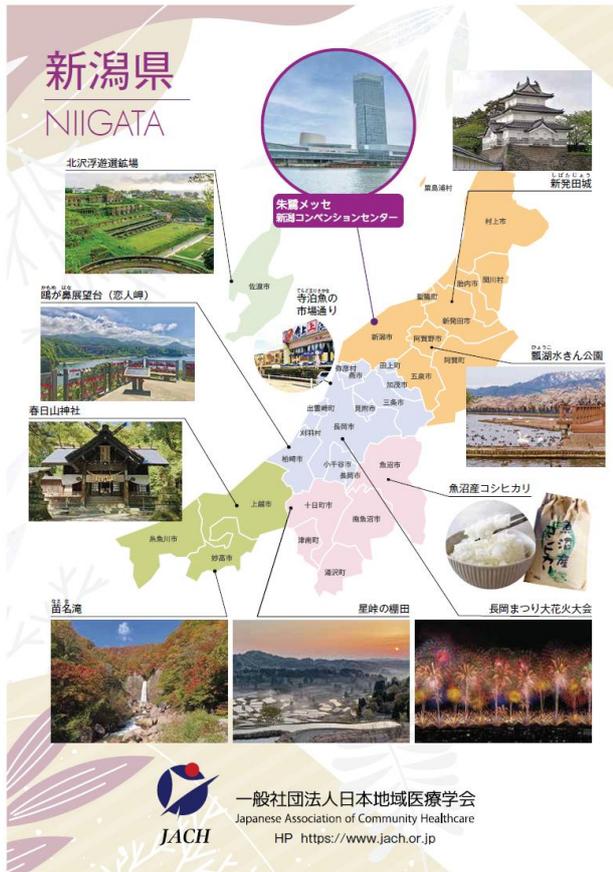
開催当日と同日に 新潟マラソン の開催も予定されています。

そのため、宿泊施設の予約が取りにくくなったり、料金が上がる可能性があります。

ご参加を検討されている方は、できるだけ早めのご予約をおすすめします。

地域医療のこれからを、一緒に考える2日間。

たくさんのご参加をお待ちしております！



地域で学び 地域に活かし みんなで育み紡ぐ 未来希望の 地域医療

第4回 日本地域医療学会 学術集会

会期 2025年10月11日(土)・10月12日(日)

会場 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
新潟市中央区万代島6-1

学会長 藤森 勝也 JA新潟厚生連 あがの市民病院長

地域で学び、地域に活かし、

みんなで育み紡ぐ、 未来希望の地域医療

学会長 あいさつ

日本は、超高齢・少子・人口減少社会で、財政危機に直面しています。このよな中で医療を継続していくためには、住民が自ら健康に取り組み、ご近所さんの助け合（愛）い、が欠かせません。高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもと、住み慣れた地域で、可能な限り自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう「地域の包括的な支援・サービス提供体制を構築」する「地域包括医療・ケア」の深化が求められています。医療人は、それぞれの地域で住民と医療を通して学び、交流し、この学びを住民・行政と連携し、地域に活かすことが求められています。「活私開公」です。医療関係者は、ある時は教え、ある時は学び、医療人生を紡いでいます。「地域医療」は、住民・行政・医療人が三位一体となって、担当する地域の医療資源を最大限活用し、継続的に「保健・医療・介護（福祉）」の包括的なサービス」を計画・実践・評価するプロセスですが、やりがいのあるタスクと思っています。

本学会が育て認定する「地域総合診療専門医」は、これからの日本社会に大きく貢献するでしょう。「地域医療」「地域包括医療・ケア」への取り組みは、拡大・深淵です。本学術集会では、全国の取り組みを共有し、各人がさらに高みを目指せるよう、行政・住民とよき連携が構築される、未来にわたり、継続していくけるよう、議論を深めることができればありがたいと考えています。手助けある学会ですが、多くの皆様のご参加を期待しながら、新潟の地でお待ちしております。

みんな集まれ!! 朱鷺が舞う、宝の山・世界遺産「佐渡金山」がある 新潟の地に!!

参加者の範囲 日本地域医療学会正会員、学生会員及び賛助会員ならびに日本地域医療学会及び地域医療の発展に志を同じくするものとする。

会期 2025年10月11日(土) 学術集会・交流会
10月12日(日) 学術集会

開催方法 会場及びオンラインによるハイブリッド開催

主催 一般社団法人日本地域医療学会

会場 「朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター」
〒950-0078
新潟市中央区万代島6-1
TEL: 025-246-8400

交流会会場
「ホテル日航新潟」
〒950-0078
新潟市中央区万代島5-1

学会長及び副学会長

学会長 藤森 勝也 JA新潟厚生連あがの市民病院院長
副学会長 布施 克也 魚沼市立小出病院長
副学会長 井口 清太郎 新潟大学大学院医歯学総合研究科教授

学会の内容(予定)

基調講演、理事長講演、学会長講演、シンポジウム
研修報告(地域総合診療専門医を目指して)
学生・研修活動報告、ブラッシュアップセッション
(明日から活かせる!! 地域医療で役立つレクチャー)
一般演題(ポスター発表・口演発表)
学生演題(ポスター発表、ワールドカフェ等)

プログラムの日程 ホームページに掲載いたします。

参加者負担金

	会場参加	オンライン参加
会 員	12,000円	8,000円
一 般 参 加 者	15,000円	10,000円
専 攻 医 [会員・非会員]	7,000円	4,000円
医師以外 [多職種 会員・非会員]	3,000円	2,000円
研 修 医 [会員・非会員]	無 料	
学 生 [会員・非会員]		
演 者・座長 [非会員]		

交流会 10月11日(土) 趣向を凝らして開催: 12,000円
*ただし、学生の交流会参加費はホームページに掲載しております。

昼食(弁当) 別途申込 1食 1,000円 (一部演者等を除き参加者負担)
*申込締切日に取消を行う場合、取消日によっては取消料が発生する場合がありますので、予めご了承ください。

申込み等 <https://www.jach.or.jp/4gakujuyutu/>

事務局 第4回学術集会事務局 (一般社団法人日本地域医療学会内)
〒105-0012 東京都港区芝大門2-6-6 VORI 芝大門 4F
TEL: 03-6402-4010 / FAX: 03-6402-4011
E-mail: office@jach.or.jp

第77回通常総会を開催

令和6年度(第77年度)貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案及び注記表並びに事業報告を承認

I. 第77回通常総会の開催について

7月24日、本会は、東京・大手町のJAビル「401会議室」において第77回通常総会を開催した。

総会の開会にあたり、長谷川浩敏代表理事会長が挨拶をした後、来賓として、自民党議員連盟「農民の健康を創る会」会長の森山裕衆議院議員並びに山野徹JA全中代表理事会長より祝辞をいただいた。



祝辞を述べる森山裕・衆議院議員

II. 議事内容

議事に入り、① 第1号議案「令和6年度(第77年度)貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案及び注記表並びに事業報告の承認に関する件(案)」、② 第2号議案「理事の補欠選任に関する件(案)」、③ 「退任役員に対する役員退職慰労金の支出に関する件(案)」を上程し、いずれも全会一致で承認された。



祝辞を述べる山野徹・JA全中代表理事会長



挨拶をする長谷川浩敏・代表理事会長

Ⅲ. 決議文の採択

議事に引き続き、決議文の採択が行われた。

決議では、JA厚生連と緊密に連携した中で、保健・医療・高齢者福祉事業を組合員や地域住民に安定して提供できるよう取り組むとし、JA北海道厚生連の西本会長が読み上げを行った。

具体的には、① 診療報酬について、物価・賃金の上昇に応じた仕組みの導入および入院基本料の引き上げを求める、② 「有償病床に係る要件（平均5千円以下）」及び「訪日外国人に係る診療費要件（1点10円）」の見直しが実現するよう取り組む、③ 令和6年度補正予算の活用について必要な支援を行うとともに、政府に対して、更なる財政出動を求める、④ 地方交付税措置について、公的医療機関が担う政策医療に十分な支援措置となるよう支援を求める等が決議された。



決議文を読み上げる西本護・JA北海道厚生連代表理事会長

【決議文】

決 議 文

物価の高騰や賃金の急激な上昇局面の中、JA厚生連の経営は非常に厳しい状況に置かれている。本会は、JA厚生連と緊密に連携し、保健・医療・高齢者福祉事業を組合員や地域住民に安定して提供できるよう、ここに決議する。

1. 公定価格として2年毎に改定される診療報酬について、物価・賃金の上昇に応じて適切にスライドする仕組みを導入するとともに、特に、入院基本料の引上げを求める。
1. 社会情勢の変化を踏まえ、法人税非課税措置を受ける厚生連に適用される、「有償病床に係る要件（平均5千円以下）」及び「訪日外国人に係る診療費要件（1点10円）」の見直しが実現するよう、令和8年度税制改正要望に取り組む。
1. 令和7年度に繰り越された令和6年度補正予算（生産性向上・職場環境整備等事業、病床数適正化支援事業等）の積極的な活用について必要な支援を行うとともに、政府に対しては、令和7年度中に更なる財政出動を求める。
1. 地方交付税措置について、公的医療機関が担う政策医療並びに不採算医療等に配慮した制度の拡充が図られてきたが、実態として十分な支援措置とはなっておらず、必要な支援を求める。

令和7年7月24日

全国厚生農業協同組合連合会 通常総会

IV. 役員の新体制について

総会では、原喜代志氏、鈴木政成氏及び山内謙治氏が理事に新たに選任された。役員の新体制については、次のとおり。

JA全厚連・新役員体制一覧

代表 理事 会長	長谷川浩敏	(JA愛知厚生連 経営管理委員会会長)
副 会 長 理 事	神農 佳人	(JA長野厚生連 経営管理委員会会長)
代表理事理事長	歸山 好尚	(新任・学識経験者)
理 事	西本 護	(JA北海道厚生連 代表理事会長)
理 事	原 喜代志	(新任・JA福島厚生連 経営管理委員会会長)
理 事	八木岡 努	(JA茨城県厚生連 経営管理委員会会長)
理 事	平本 光男	(JA神奈川県厚生連 経営管理委員会会長)
理 事	伊藤 能徳	(JA新潟厚生連 経営管理委員会会長)
理 事	鈴木 政成	(JA静岡厚生連 経営管理委員会会長)
理 事	田中 義彦	(新任・JA広島厚生連 経営管理委員会会長)
理 事	松田 清見	(JA徳島厚生連 経営管理委員会会長)
理 事	山内 謙治	(新任・JA愛媛厚生連 経営管理委員会会長)
理 事	山野 徹	(JA鹿児島県厚生連 経営管理委員会会長)
理 事	二川 一男	(有識者)
理 事	三浦 進	(有識者)
代 表 監 事	平岡 武	(JA山口厚生連 経営管理委員会会長)
監 事	佐藤 佳二	(全国共済農業協同組合連合会 常勤監事)
監 事	内田 英憲	(株JA新聞連 監査役)

小児医療体制及び周産期医療体制の現状と 取組について等研修会を開催 第21回全国厚生連病院長会研修会

全国の厚生連病院で組織する全国厚生連病院長会は8月2日、第21回全国厚生連病院長会研修会を東京・御茶ノ水の東京ガーデンパレスにおいて開催し、18厚生連から46名の病院長等が参加した。

当日は、「小児医療体制及び周産期医療体制の現状と取組について」（近藤祐史・厚生労働省 医政局 地域医療計画課救急・周産期医療等対策室長）、「医師偏在対策について」（松本憲明・厚生労働省 医政局 地域医療計画課医療確保対策専門官）、「法医学者からみたヒトの死」（木下博之・科学警察研究所 所長）の3題の講演が行われた。



近藤氏の講演の様子

近藤氏は講演で、周産期医療については、出生数の減少に伴い分娩取扱医療機関が減少する一方、地域では最低限の分娩体制を維持する必要がある、総合・地域周産期母子医療センターの役割維持やオープン・セミオープンシステムの活用を通じた地域連携が重要であると述べた。さらに、妊婦に対する交通費補助などアクセス支援策や周産期医療施設における産科病棟整備への補助について説明した。小児医療については、三次は

基本的に都道府県に1か所ぐらいが基本であるため、一次、二次の小児医療をどう支えるかが重要であると述べ、#8000の電話相談や医療的ケア児支援の拡充について説明し、地域全体で小児・周産期医療を支える必要があると述べた。参加者からは、医師の偏在や地域特性を踏まえた分娩施設維持の必要性など、現場の切実な声も相次ぎ、政策に反映を求める意見が出された。

松本氏は講演で、人口減少と高齢化の進展により医療需要は2030年前後にピークを迎え、その後は減少する一方で、医師数は増加を続け、地域や診療科で偏在している現状を説明した。都道府県では3年ごとに医師確保計画を策定し、地域枠や臨床研修の配置調整で偏在是正を図っているほか、厚生労働省では医師少数地域での勤務経験を認定する認定医師制度や医師の価値観、勤務・生活環境、キャリアパス等を踏まえた経済的インセンティブを導入していることを説明した。

また、全国的な医師マッチングやリカレント教育を推進し、世代を超えた医師の流動性を高める方針を示した。参加者からは、外科・小児科の医師不足、地域枠離脱、大学の派遣力低下、シーリングの弊害など現場の課題が提起されるなど、活発な質疑応答がなされた。

木下氏の講演では、日本では年間約160万人が死亡し、そのうち約20万人が検察官（司法警察員）による検案対象となるが、解剖に至るのは2万人程度にとどまり、法医学者は全国で150人ほどと極めて少なく、体制の脆弱さが浮き彫りになっている状況について説明した。また、災害時には多



木下氏の講演の様子

数の遺体への迅速な対応が求められるが、人材不足や医療現場の負担が課題となっていると述べた。死因究明は犯罪の見逃し防止だけでなく、公衆衛生の向上にも不可欠であり、木下氏は最後に「死者が生者を教える（屍は師なり）」という法医学の理念を紹介し講演を終えた。参加者からは、「異常死増加にもかかわらず、基礎系医学に進む医師が少ないため、医師偏在も含めて根本から考え直す必要性を感じた」、「検死、法医学、また災害時の対応について、法医学者であり科学警察研究所長である先生から広範なお話を興味深く拝聴した」等の感想が寄せられた。



松本氏の講演の様子

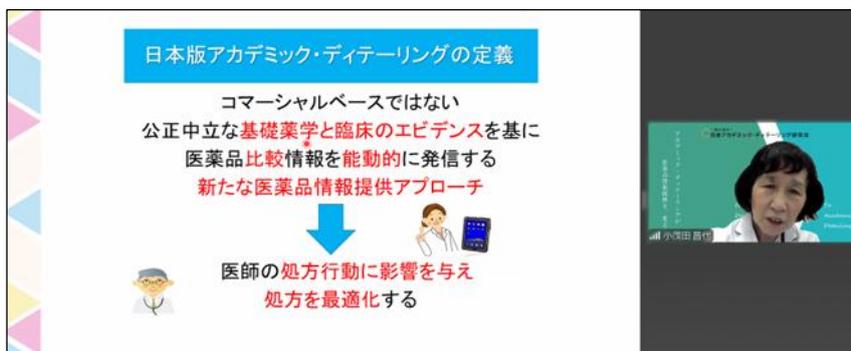
数の遺体への迅速な対応が求められるが、人材不足や医療現場の負担が課題となっていると述べた。死因究明は犯罪の見逃し防止だけでなく、公衆衛生の向上にも不可欠であり、木下氏は最後に「死者が生者を教える（屍は師なり）」という法医学の理念を紹介し講演を終えた。参加者からは、「異常死増加にもかかわらず、基礎系医学に進む医師が少ないため、医師偏在も含めて根本から考え直す必要性を感じた」、「検死、法医学、また災害時の対応について、

アカデミック・ディテリングについて研修

医薬品セミナーをWEB開催

本会は8月8日、医薬品セミナーをWEBで開催し、16 厚生連から 43 名が参加した。本セミナーは、薬剤師の資質向上を目的として開催しており、当日は「アカデミック・ディテリングが、薬剤師を変える！基礎薬学を活用した個別最適化に貢献」（小茂田昌代・アカデミック・ディテリング研究会 代表理事、千葉西総合病院薬剤部顧問、東京理科大学薬学部 客員教授）の講演が行なわれた。

アカデミック・ディテリングとは、コマーシャルベースではない公正中立な基礎薬学と臨床のエビデンスを基に医薬品比較情報を能動的に発信する新たな医薬品情報提供アプローチのことで、医師の処方行動に影響を与え、処方を最適化する活動であると説明された。



セミナーのようす

特に、アメリカでの臨床薬剤師の活動に触れ、処方前から介入するアカデミック・ディテリングの有効性を紹介し、基礎薬学と臨床エビデンスを融合させることで、ガイドラインの限界

を超えた個別最適化が可能になると述べた。

また、日本の薬剤師には「伸びしろ」があるとし、薬剤師の役割は疑義照会にとどまらず処方支援と最適化にあり、教育改革と資材開発を通じて薬剤師が処方行動に積極的に関与し、患者に最もふさわしい治療を届ける時代を切り拓くべきと訴えた。

参加者からは、「アカデミック・ディテリングの重要性について理解することができ、とても良かった」、「アカデミック・ディテリングはこれからの薬剤師に必須のスキルになると感じた。是非これからもこの考え方を広めてもらいたいと思う」等の感想が寄せられた。



令和7年度 職員の健康に向けた 体組成測定器の解放実施

(JA岩手県厚生連)

JA岩手県厚生連では、衛生委員会活動の一環として、職員の健康に対する意識を高め、健康管理につなげる取り組みを実施しています。

8月5日～8月29日の期間、体組成測定器を施設内の各会場に巡回設置し、少しでもたくさんの職員に健康の重要性を知っていただくため活動しました。体組成測定器は体重、BMI値、筋肉量、体内年齢等の測定ができ、健康状態に合わせたパンフレットを複数設置し配布しました。本会、保健師の指導の下、必要に応じた健康管理情報の提供をおこないました。職員同士のコミュニケーションにもつながり楽しく健康について学んでいます。

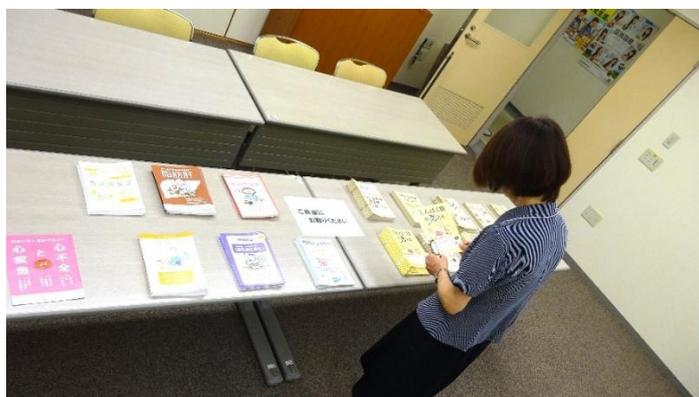
今後もJA岩手県厚生連は職員の健康意識向上に向け活動を継続していく方針です。



体組成測定器を設置の様子



保健師指導の下体組成測定の様子



健康状態に合わせたパンフレット提供の様子

(藤原真之通信員)

第48回盛岡さんさ踊り 2025 の参加

(JA岩手県厚生連)

JA岩手県厚生連では、8月1～4日に開催された「第48回盛岡さんさ踊り」に参加しました。4日間のパレード参加人数は延べ1万6,000人、観客は約110万人の来場者数でした。

8月1日第1集団にて、JAグループ総勢240名が参加し、JA岩手県厚生連からは44名の参加でした。本年は花形の太鼓リーダーを厚生連が務め、チームの最前列にて牽引するかたちになりました。気温30度を超える炎天下での活動に備え救護班が配置され、厚生連の保健師が活躍しました。太鼓と踊りの精一杯の活気ある掛け声が響き渡り、参加者全員が楽しく参加できました。

JA岩手県厚生連は、今後も地域を盛り上げる活動に参加していきます。



さんさ踊りJAいわてグループ横断幕の様子



さんさ踊りスタート直前の様子

(藤原真之通信員)

泌尿器科の常勤医による診療を再開しました

(JA秋田厚生連・雄勝中央病院)

雄勝中央病院（小松田敦病院長）の泌尿器科では非常勤医師による外来診療を中心とした対応を続けてまいりましたが、このたび4月より常勤医師1名が新たに赴任し、新しい体制のもとで診療を行っております。これまでは入院による治療が必要な患者さんを平鹿総合病院（堀口聡病院長）や大曲厚生医療センター（三浦康病院長）へ紹介しておりましたが、現在は当院でも入院対応が可能となりました。すでに入院治療を受けられ、無事に退院された患者さんもいらっしゃいます。

また、泌尿器科では重要な検査の一つとして、前立腺がん検診の三次検診で行う「前立腺生検（組織を採取して調べる検査）」がありますが、当院では現在この検査に対応出来ておらず、対象の方には他の医療機関での検査をお願いしてきました。現在、前立腺生検の実施に向けた準備を進めており、年度内には当院でも検査が可能となる見込みです。

さらに、手術治療については、主に膀胱の疾患を対象とした経尿道的手術を中心に段階的に再開しております。

これまで地域の皆さまにはご不便をおかけしてまいりましたが、今後も泌尿器科領域の診療機能を充実させ、地域の医療を支える病院として、一層努力してまいります。



新しく赴任した泌尿器科伊藤Dr.

(斉藤瑞希通信員)

秋田県農村医学会第127回学術大会 学術研究を通して地域医療・保健・福祉を考える

(JA秋田厚生連・一般財団法人秋田県農村医学会)

7月12日、秋田県JAビルにおいて、秋田県農村医学会第127回学術大会（学術大会会長 小松田敦 雄勝中央病院院長）を開催しました。

学術大会には、秋田県厚生連の職員、県内医療関係者、一般会員等、約400名が参加し、医療・保健・福祉の質の向上を目的に、幅広い分野から研究発表が行われ、メイン会場の大ホールでは、特別講演が行われたほか、43題の会員講演（一般演題）はメイン会場を含む4会場に分かれて実施しました。

特別講演では、秋田大学の山本浩史講師から『広域医療過疎地域における遠隔医療の発展を目指して：秋田大学の立場から』をテーマに講演していただきました。全国の高齢化率と比較した秋田県の高齢化率の高さから、今後秋田県のように限界集落を多く抱えた広域医療過疎の地域にとって、遠隔医療の推進は重要な役割を果たすことと合わせ、今後の新しい医療の在り方をご講演いただきました。また、質疑応答の際も活発に意見交換が行われ、会場の多くの方が真剣に聞き入る姿勢に関心の高さを感じました。

この度の学術大会にご参加いただいた全ての皆様に深く感謝を申し上げます。



特別講演の様子

(斉藤瑞希通信員)

第83回関東農村医学会を開催

(JA茨城県厚生連・JAとりで総合医療センター)

JA茨城県厚生連の経営するJAとりで総合医療センター(富満弘之病院長)は、7月26日つくば市の国際会議場(エポカルつくば)において第83回関東農村医学会を開催しました。今回は「理解して前に進む 一病院大淘汰時代の厚生連病院の取り組み」をテーマに、会場には約400人の医療従事者が集まり、病院を取り巻く厳しい現状を乗り越えるためのさまざまな実践例が発表されました。

開会にあたり、学会長の富満弘之病院長は「現在、病院が“大淘汰時代”と言われる厳しい状況であるため、本日の学会でそれぞれが知恵を持ち寄り、学び合い、それを職場に持ち帰って実践してほしい」と呼びかけました。

様々な取り組みの発表が各ブースで行われ、参加者は熱心に耳を傾けていた。またシンポジウムにおいては、国家資格を持つ専門職で構成されている医療現場を束ね、共通の目標に向かわせる役割である事務職の重要性にも注目が集まりました。

参加者からは「病院が厳しい時代を迎える中で、他施設の取り組みを知ることができ有意義だった」との声が寄せられました。茨城県厚生連は今後もこうした情報共有を通じて、地域医療の向上を目指してまいります。



シンポジウム「病院における事務の力」の様子

(先崎理恵通信員)

高校生向けインターンシップを開催

(JA茨城県厚生連・総合病院土浦協同病院)

JA茨城県厚生連が運営する総合病院土浦協同病院（広岡一信病院長）は、茨城県内の病院薬剤師不足の現状を受けて、夏休みを利用した8月6日、13日に県南地域の高校生を対象としたインターンシップを開催した。

調剤室見学、化学療法や調剤ロボット体験、先輩薬剤師や薬学生との交流会などが企画され、実際に病院薬剤師という仕事を見て、将来を考え始めた高校生が進路選択や受験勉強のモチベーションアップへと繋がるような内容となっている。

インターンシップは2日間で54名が参加し、交流会では予定時間を超過するほど活発な質疑が交わされ大いに盛り上がった。

参加した男子高校生は「薬剤師業務の見学や、薬学生から受験勉強や大学生活などの体験談を聞くことができ、ぼんやりとしていた将来の目標がはっきりした」と笑顔で答えた。

インターンシップを企画した薬剤部 安藤寛子副部長は「県内の病院薬剤師不足は深刻。薬剤師の確保が目的だが、みなさんの進路選択の一助になれば企画した甲斐がある」と語った。

インターンシップにはNHK水戸放送局や地元新聞社の取材も入り、茨城県内の病院薬剤師不足問題の特集も組まれた。

JA茨城県厚生連では薬学生のキャリア支援策として、独自の奨学金制度も整備し、地域医療を支える薬剤師の育成を積極的に後押ししている。



薬剤師から調剤ロボットの説明を受ける高校生たち



先輩薬剤師との交流会

(先崎理恵通信員)

新病院長が就任いたしました

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

7月1日より相模原協同病院の院長を拝命いたしました荒木正雄と申します。

地域の皆様に真に信頼される病院として、「一人は万人のために、万人は一人のために」を基本理念として安心・安全で高度な医療を提供できるよう職員一丸となり、精進していく所存です。皆様のご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



相模原協同病院新院長の荒木正雄先生

(石井朋華通信員)

第17回相模原北部緩和医療研究会を開催しました

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

相模原協同病院（荒木正雄病院長）で、7月9日に第17回相模原北部緩和医療研究会が行われました。

一題目の「当院における麻薬の管理」については、当院の薬局の星野菜月薬剤師が担当しました。院内の麻薬管理はたいへん厳格に行われていますが、ルールに基づいて患者さんによる自己管理も行えるような取り組みを紹介しました。

二題目は「訪問看護におけるがん緩和ケアの実際」と題して、JA訪問看護ステーションさがみはらの大城恵子所長が講演を行いました。ここでは技術的な説明のみならず、実際の症例を詳しく提示することで、リアルな臨場感とともに在宅医療の現場について説明しました。

会場参加とWEB視聴を合わせて67名の方々にご参加いただきました。ご参加いただきました皆様に心より感謝申し上げます。



研究会の様子

(石井朋華通信員)

院内防災訓練を実施しました

(JA神奈川県厚生連・伊勢原協同病院)

伊勢原協同病院（鎌田修博病院長）では、8月7日に伊勢原消防署の職員立ち合いのもと院内防災訓練を実施しました。今回の訓練では、夜間に病棟で火災が発生した状況を想定し、初期消火の対応や患者役職員の避難誘導、現場での指揮を行いました。

また、防災センターに臨時対策本部を立ち上げ院内全体への放送を実施し、有事の際に迅速に情報を伝達できるよう取り組みました。

避難誘導では車椅子による護送とストレッチャーやソフト担架による担送を行いました。緊急時に使用されるソフト担架は、迅速かつ安全に患者を搬送する為に設計されており、搬送時の摩擦やショックを和らげる利点があります。使用方法や搬送方法について確認し、消防職員より持ち上げ方や運ぶ際の指導を受けました。

また、屋外で消火器訓練を行い、消火時の姿勢や使用法を確認しました。訓練後の消防職員による講評では、避難開始までの準備にやや時間を要した点が課題として挙げられました。あわせて、火災時に炎が天井まで達するまでの時間や消火器・消火栓を迅速に使用する初期対応について解説があり、初期消火の重要性を再認識しました。今後も訓練を実施し有事に備えてまいります。



避難訓練の様子



消火器訓練の様子



ソフト担架による担送

(石井朋華通信員)

キャリア教育イベント メディカルツアー開催

(JA岐阜厚生連・中濃厚生病院)

中濃厚生病院（勝村直樹病院長）は、7月29日に、医療に関心を持つ中高生を対象に、岐阜医療科学大学と連携し、地域医療の現場・大学教育への理解を深めることを目的にした、キャリア教育イベント「メディカルツアー」を開催しました。

少子高齢化による医療人材不足や医療福祉ニーズの多様化に向けた医療現場での取り組みや仕事のやりがいについて、病院長はじめ病院職員が説明し、その後、放射線治療機器や検査室を見学してもらいました。

参加した高校生は「大学での学びとその後の働く現場の繋がりをイメージできて、とても貴重な経験でした」と話していました。

今後も当院では、このような地域貢献活動を積極的に行い、地域医療の担い手の確保・育成に向けて取り組んでまいります。



メディカルツアーの様子

(寺師史華通信員)

令和7年度三重県厚生連研修医症例発表会の開催

(JA三重厚生連)

JA三重厚生連では8月8日、研修医の知識を深めるため、三重県厚生連研修医症例発表会を開催しました。この研修医症例発表会は三重県厚生連の研修基幹病院の持ち回りで毎年開催されており、今回は鈴鹿中央総合病院（北村哲也病院長）の主催で行われました。

鈴鹿中央総合病院 臨床研修責任者 村田哲也医師より「研修医に必要な臨床検査の知識」をテーマに講演いただき、各研修基幹病院から研修医24名（1年目21名、2年目3名）が参加しました。検査値の基本的知識の説明に真剣に耳を傾ける姿や、症例検査データから病態を判断する時間ではゲーム感覚で楽しく取り組む姿が見られました。



発表会の様子

(吉田英記通信員)